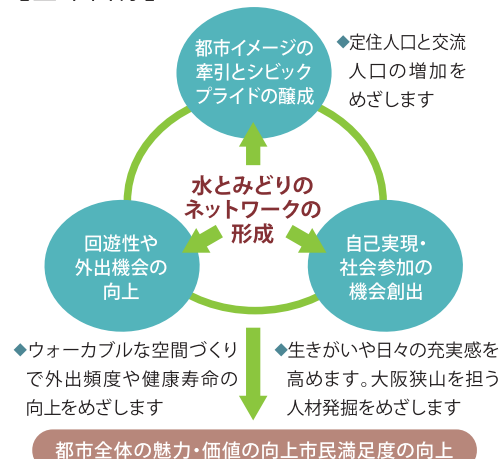


水とみどりのネットワーク構想の基本的な考え方

【基本目標】

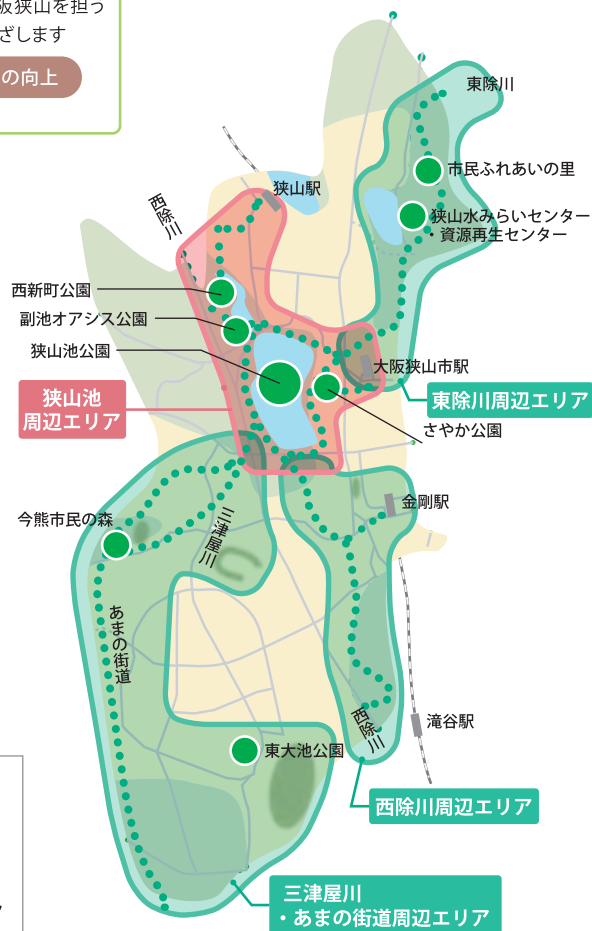
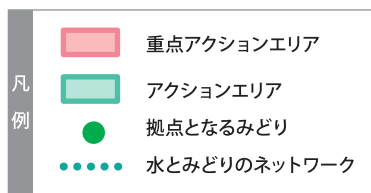


【基本方針】

- ◆ベースとなるネットワークの再編
- ◆ネットワークの拠点となる「水とみどり空間」における魅力向上
- ◆公園や水辺空間等を活用した、市民活動のステージづくり

重点アクションエリアとアクションエリア

- 狭山池周辺エリアを重点アクションエリアとして位置づけ、ネットワークの中心拠点（ハブ）かつ、市のシンボルエリアとして、リーディング・プロジェクトを展開していきます。
- 西除川周辺エリア、三津屋川・あまの街道周辺エリア、東除川周辺エリアをアクションエリアと位置づけ、重点アクションエリアの取組みと連携しながら各エリアの特色を生かした種々の取組みを展開していきます。



大阪狭山市 水とみどりの ネットワーク構想

「狭山池」をはじめとする「豊かな水とみどり」が大阪狭山市の魅力です。これらの豊富で多様な“水とみどりの空間”を活用して、官民連携による柔軟な発想と自由度の高い取組みを展開するために『水とみどりのネットワーク構想』を策定しました。



Osaka Sayama
Projects for developing water and greenery networks

重点アクションエリア(狭山池周辺エリア)の将来像

ライフ シーンの 設定

ターゲット(利用者)とライフシーンを想定し、場所の特性に応じて、それらを実現できる将来像を描きます。

遊ぶ・憩う 学ぶ

水とみどり溢れる環境を活かした子育てや憩いの時間が日常のワンシーンに!

- ◆公園で遊ぶ子どもを見守りながら、親同士がカフェでお茶をすることができる
- ◆自然環境や狭山池の歴史を通じた学びを体験することができる

ターゲット
(利用者)の
一例

- ・子どもを連れて公園等で過ごしたい子育て層
- ・狭山の歴史等について学びたい層

運動する 健康になる

豊かな自然環境の中で、運動やスポーツを通じ、交流や自分磨きを楽しむ!

- ◆すでに盛んなランニングやウォーキングをより快適に楽しむことができる
- ◆ツーリングの最中、心地の良い環境で休息することができる
- ◆公園内で、ヨガ、ウォーキング等、運動サークルで活動することができる

- ・通勤前や休日の都心部で働いている層
- ・健康・スポーツ等に関心のある層
- ・元気なシニア層
- ・子どもと運動をしたい子育て層

体験する 交流する

手軽に自然を体験し、“都心と自然を感じる郊外型ライフスタイル”を楽しむ!

- ◆水面やみどりに包まれた環境を活かしたSUPやピクニック等のアクティビティが体験できる
- ◆収穫など農を通じた体験ができる
- ◆南河内を代表する地場産品を活かした食を楽しむことができる
- ◆市民同士が地域活動や趣味の共有といったテーマ型の活動を通じて、交流することができる

- ・都心部に勤務して、郊外に住む市民や南河内地域に居住している層
- ・地域との関わりを望む層



公共空間の活用



自然を活かしたアクティビティ



サイクルポートやランナーステーションなど健康サポート機能



公園や水辺の魅力を活かしたカフェのイメージ

OsakaSayama

Projects for developing water and greenery networks



地場産品を生かした食の提供

狭山池公園と副池オアシス公園のアクセス強化

アンダーパスの整備による接続強化接続(完了)

副池オアシス公園ゾーン

狭山池公園周辺ゾーン

回遊動線

回遊動線(アクションエリアとの接続)

主な広域からのアクセス導線

府立狭山池博物館・市立郷土資料館

大阪狭山市駅

金剛駅

狭山池公園周辺ゾーン

- ◆狭山池の西側における来訪者をもてなす本エリアの新たなエントランスとしてのあり方検討。
- ◆さらなる学びや歴史の発信拠点としての府立狭山池博物館・市立郷土資料館の魅力向上。
- ◆「河川敷地占用許可準則に基づく都市・地域再生等利用区域」における水辺や河川空間を利用したにぎわいづくり。

副池オアシス公園ゾーン

- ◆副池オアシス公園と西新町公園の新たな地区公園としての一体化。
- ◆狭山池公園との結節点における、エントランス空間の形成と集客性の高い機能の導入。
- ◆来訪者や市民が日常的に憩い、遊び、過ごしたくなる様な、居心地の良い空間づくり。
- ◆水辺やみどりを生かした非日常が体験できるアクティビティ機能等の導入、市民活動をサポートする機能の導入。



にぎわいや交流を生む機能導入

- ◆官民の連携により、場所の特性なども勘案し、「公園と一体となった憩えるにぎわい機能(カフェなど)」や、「運動・健康サポート機能」「アウトドア機能や、水上利用等アクティビティ機能」「広域交流機能」等のライフシーンを実現する各種機能の導入を検討します。

自然や屋外空間を活かした活動の場づくり

- ◆現状の貴重な自然環境を保全すると共に、新たな環境整備などにより、市民の活動の場づくりを進めます。
- ◆想定される活動の特性や活動相互の関係性に応じ、多様なニーズに対応することができるよう、利便性の高い空間をつくるとともに、その運用方法を検討します。

にぎわいや交流を生む機能導入

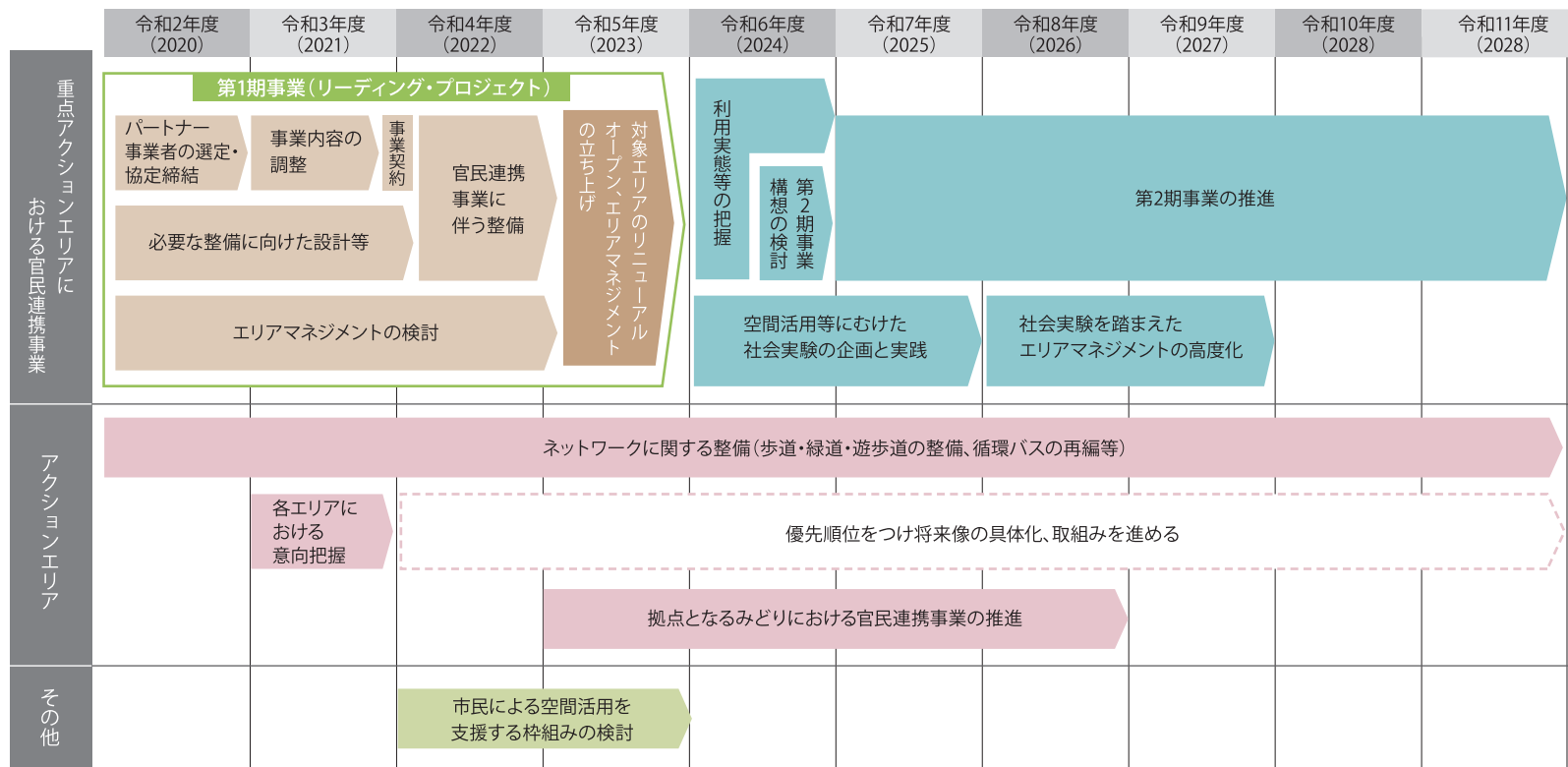
- ◆各団体での取組みと、エリア内の活動場所の運営・経営等について、継続的に実施できるよう、関係団体で構成されるエリアマネジメント体制の構築を検討します。
- ◆これからの本市を担う活動団体の取組みや、組織間の連携をサポートします。
- ◆エリア内にある駐車場、施設等の維持管理、運営、経営などの仕組みについて、そのあり方を検討します。
- ◆本エリアの取組みを市全体へ連鎖的かつ波及的に実施することで、都市全体の価値の向上をめざします。



※ にぎわいのイメージを表現したものであり、土地利用や整備計画等の具体的な事業内容を表したものではありません

実現に向けた当面のロードマップ

当面、以下のスケジュールを想定し、各取組みを進めます。



アクションエリアの取組方針

アクションエリアにおいては、現在、顕在化している課題に対応するため、既存の緑道や都市緑地、護岸施設等の歩行者空間再編等を中心に、順次進めていくことで、連続した快適な歩行者空間ネットワークの形成を図るとともに、地域や既存の活動主体とともに、各エリアの将来像を描いていきます。

